

佐伯町全景

南海部郡の中部番匠川の左岸にあり、頗る風光に富む。
舊毛利氏の城市にして、戸數一千五百、人口八千六百、南
海部郡役所、區裁判所、佐伯警察署、小林區署、佐伯稅務署、
佐伯郵便局等あり。



沈墮瀑布

縣下第一の巨川大野川の上流にして、大野郡東大野村にあり。互石忽ち裂けて崖壁峭立し、高さ九丈餘、幅百歩を超ゆ、水勢聲々、乾坤を震撼し、飛沫霏散して、驟雨の到るが如く、滿山の草木、紅紛れ綠駭ろき、衝激鳴動して、壯觀極り無し、一町許を隔て、雌瀑あり、高さ十餘丈、幅一丈、一瀉直下、直ちに本流に合す、玉簾瀉々として、絲竹の響を爲し、虹霓帯の如く半天に架す、亦頗る愛すべし。

沈墮瀑

近衛前關白久前

右引をはたちあまりを連ぬとも

麓になりぬ豊國のたき

全

堀杏庵

飛流如雪又如虹、人骨清冷一望中、

高直明々奇絶處、却疑素練落天宮、

飛瀑落來沈墮淵、淵深巖峻忽爲眩、

古今此處號男女、盟久千年山與川。



大野郡立農學校

大野郡三重町にあり。明治三十六年十二月の新築にして、生徒數六十六人あり。大野郡は、山野遠く連り、農業上の遺利尠しとせず、此種の學校を要すること最も大なりとす。



大分縣種畜場

明治三十九年一月の新設にして、直入郡久住村にあり。
九州第一の巨嶽たる九重山の南麓に位し、廣袤三百十
三町餘、高原、遠く相連なりて、遙かに阿蘇山、根來岳、傾山、
黒岳の諸山を望み、地味豊饒にして、綠草繁茂し、清泉處
々に湧く所、肥馬天風に嘶くの光景、覺えず人をして意
氣豪ならしむ。



魚住瀑布

直入郡白瀧川の中流に懸る。雌雄二瀑あり。高さ各十丈、幅八十間に及ぶ。水勢滔々として落下す。下流に橋あり、魚住橋といふ。橋上より雄瀑を望めば、實に壯觀を極む。橋を渡り、流れに沿ふて、少しく溯れば、滾々として、清泉の湧出する一大岩窟あり、清涼窟といふ。泉味、甘冽、加ふるに、咫尺の間に、雌瀑の聲々落下するあり、爽快謂ふべからず。



竹田町全景

直入郡の東南端にあり。舊中川氏の城市にして、戸數一千百、人口六千餘、直入郡役所、竹田警察署、竹田稅務署、竹田區裁判所、葉煙草收納支所、竹田郵便局、縣立竹田中學校等あり。市街の東南に、岡城址あり。昔時、天下無比の要害と稱せられし、名城なりしかども、今は、唯斷礎を寒烟野草の中に、留むるあるのみ。

追憶南遊

廣瀬淡窓

千巖萬壑入岡藩、士庶肩摩道陌喧、

絕壁雲懸公子館、斷崖泉落大夫門。

中谷寥寥人不行、陰雲堆裏宿柴荆、

乳猿夜半來尋食、一徑苔茅踏有聲。



竹田橋

熊本縣道に在り、竹田市街を繞れる稻葉川に架設す。明治四十年八月の新設にして、同地方に産出する櫟材を以て作り、トラス式を用ふ。橋上に立て徘徊すれば、嵐影水光、身の入寔に在るを覺えず。



龍門の瀑布

玖珠郡東飯田村にあり、傍に一梵宇あり、龍門寺と號す。
瀑布の稱、蓋し此に出づ。高さ五丈、幅二丈餘、中斷して二
段となり、下つて深潭に入る。東岸を吐月峯といひ、西岸
を歸雲洞と呼ぶ。中段瀑流の湛ふる處を白雲庭と名づ
け、下流巖角に碎けて、碧淵に注ぐところを金珠湍と稱
し、傍の一小望亭を、普證閣と命ず。世に瀑布多しと雖ど
も、其優美なること、斯の如きは多く、比を見ざる所なり
とす。

龍門寺瀑布

廣瀬淡窓

幾條白練掛層巖、纔到半腹漚成淵、

渾々浩々吞還吐、更爲飛雨落中天、

天設此境定何意、應嫌徑直少風致、

故作迂計誇世人、堪知造物亦好事、

我來振衣立岸隅、欲酬奇景一句無、

不知驪龍眠何處、但見濺沫湧如珠。



久住硫黃礦

玖珠郡の南部九重山上にあり。一個年の産額、三百七十
七萬一千百二十四斤、其價額五萬六千五百六十六圓に
及ぶといふ。



森町全景

玖珠郡の北部にあり。舊久留島氏の城市にして、戸數一千二百、人口五千五百、玖珠郡役所、森警察署、森税務署、森郵便局等あり。



日田町全景

日田郡の中部にあり。舊徳川氏直屬の地にして、戸數一千八百人口一萬六百、三隈川市街の中央を貫流し、西下して筑後に入る、筑後川即ち是なり。河流に産する鮎は、其名遠近に高し。日田郡役所、豆田稅務署、豆田小林區署、豆田郵便局、日田警察署、縣立農林學校、豆田區裁判所等あり。

隈川雜詠

廣瀬淡窓

龜山宛在水中央、傳是毛侯古戰場、

畫戟彩旗空一夢、蘆花亂發月蒼々。

觀音閣上晚雲歸、忽有鐘聲出翠微、

沙際爭舟人未渡、雙々白鷺映江飛。



夜明村より水電發電所を望む

日田郡日田町にあり。電力百二十馬力にして、電燈、製材、
精米事業に使用する。



山國橋及河口

山國橋は、中津市街の西北にあり。明治三十七年五月の架設に係る。橋上に立ちて、河口を望めば、周防洋は澎湃として、一望際涯なく、汽船の來往、船舶の出入、皆、招呼の中にあり。夏夕晚涼を追うて、橋上に徘徊せんか、清風衣袂を吹いて、爽快いふべからず。



福澤翁記念碑

中津町の西北中津神社境内にあり、同町出身の故福澤
諭吉翁の記念として明治三十七年大分縣教育會の建
設せる所なり。高さ四丈二尺、正面には獨立自尊の四字
を刻む。山國川其後ろを流れて直に海に注ぎ、土地閑靜
庭園廣潤にして四時遊樂に適す。



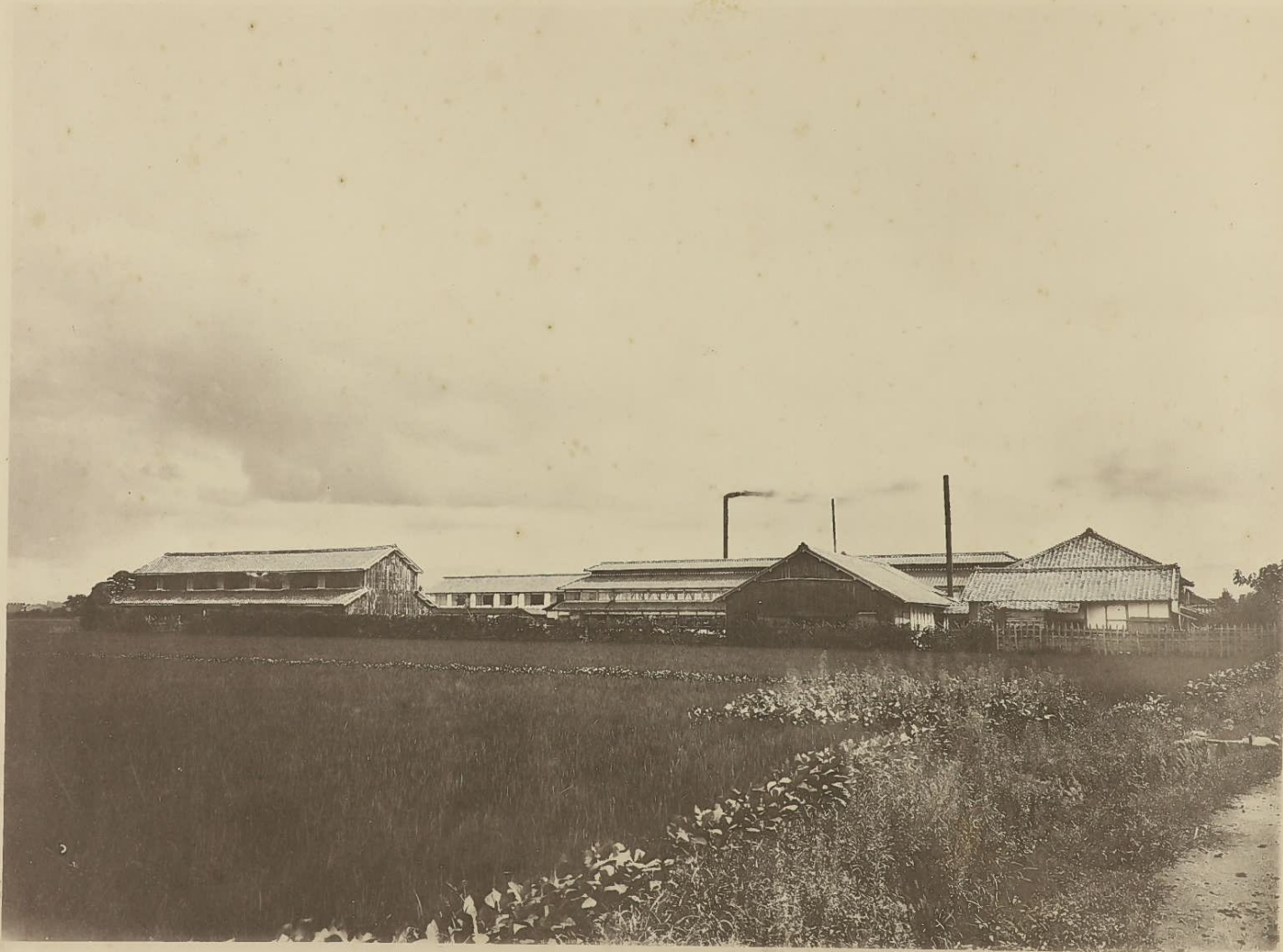
鐘淵紡績株式會社中津支店

中津市街の南部にあり。明治三十五年十月の設立にして、紡錘數一萬三百、製糸高五十萬貫に及ぶ。



豊中製糸株式會社

中津市街の南部にあり。明治二十九年七月の設立にして、資數二百個、製糸高二千二百貫に及ぶ。



新羅漢寺

耶馬溪、青の洞門を距る、半里許にあり。大化年間、法道仙人の開闢に係るといふ。斷巖絶壁の間、洞窟あり。飛瀑あり。天然の石橋あり。寺は懸崖に寄り、樓閣巍然、風光奇絶。快絶、其内に、釋尊、文殊、普賢、五百羅漢等の石像を安置す。青苔白藓、古色掬すへし。

題羅漢寺瀑布

田能村竹田

懸水三十仞、疾雷聞數里、盛暑涼生秋、

倚仗夫誰子。

遊羅漢寺

村上佛山

羅漢山寺中、奇工役鬼神、危橋架片石、

大洞容千人、雲白埋僧座、苔青蝕佛身、

病牀殘夜夢、趁爾上嶙峋。



古羅漢寺

羅漢寺と一溪を隔て、前方に突兀たるものを古羅漢とす。山腰に一大洞穴あり。天然の石門を成す。傳へいふ、今の羅漢寺は、嘗て、此地より移したるものなりと。然れども其年代を詳にせず。



鮎返り

耶馬溪の奇勝、下流に至りて、漸く盡きんとする所、鮎返りの小瀑あり。水勢滔々鮎も遡り得すといふより、名を得たるなるへし、岸を下り、河原に出て、眺望するを宜しとす。

香魚回

帆足萬里

聞説銀鱗點額還、一條清雪落澄灣、

幽人觀罷無他事、獨聽溪聲出晚山。



青の洞門

下毛郡桶田驛を過ぎ行くこと、數町にして、峭立せる斷崖の胸腹を穿ちて路を通ずるあり、延長三百步、處々に扉を穿ちて明を取る、青の洞門、即ち是なり。寛永三年八月、成功せしものにして、江戸淺草の僧、禪海が三十餘年間の、苦辛經營に成りしものなりと云ふ。洞門に入る所、渡舟あり。向岸に渡りて見れば、巖影を倒にして、深潭に映じ、頗る壯觀なり。第一洞門を過ぐるること三十步にして、巖腰を攀づれば、洞窟に禪海の石像を安置せり。

青生洞門

依田百川

會聽溪中第一名、秀靈鍾處是青生、

今宵來宿探奇客、衆嶼崔嵬入夢清、



山陽筆投岩

耶馬溪柿坂驛の對岸にあり。山陽會て、此溪に遊び、路傍の旗亭に入りて、酒を歸め、豪猪を炙り、陶然として、絶景に對す。宜なり、終に隻句を題する能はずして、筆を投せしといふこと、山容水態、全溪中、得易からざるの勝地なり。

青帘往々賣新醪、杜宇花紅夏已回、

一百里唯隨澗轉、十三村總背山開、

危峰拔地尖於筍、瘦樹經溪短似苔。

怪得旅窓晴昔夢、劔門關下策驢來。

